リノベーションまちづくり学会 2015 in 大阪

プロフィールシートブック

PROFILE SHEET BOOK

目　次

02 はじめに
03「プロフィールシートブック」について
04 リノベーションまちづくり学会 2015 in 大阪　プロフィールシート（五十音順）

リノベーションまちづくり学会 2015 in 大阪

日 時
2015 年 11 月 28 日（土）10:00 ～ 17:00
2015 年 11 月 29 日（日）10:00 ～ 16:00

場 所
学 会 会 場：大阪市立大学　高原記念館（大阪府大阪市住吉区杉本 3-3-138）
懇親会会場：味園ビル 4F 大宴会場（大阪府大阪市中央区千日前 2-3-9）

スケジュール
11 月 28 日（土）
9:00 ～ 10:00　受付
10:00 ～ 10:30　開会式
10:30 ～ 12:00　ラウンドテーブルディスカッション①
12:00 ～ 13:00　昼休憩
13:00 ～ 15:00　ラウンドテーブルディスカッション②
15:00 ～ 17:00　招待講演（20 分＋質疑応答 10 分 ×4 名）
18:00 ～ 20:00　懇親会

11 月 29 日（日）
10:00 ～ 12:00　プレゼンテーション
12:00 ～ 12:30　閉会式
12:30 ～ 16:00　リノベーションまちづくり事例見学会

招待講演
15:00 ～ 15:30　中谷 ノボル / 株式会社アートアンドクラフト
「ホストシティ大阪のリノベーションまちづくり」
15:30 ～ 16:00　雄谷 良成 / 社会福祉法人佛子園理事長
「廃寺を活用した「ごちゃまぜ」のまちづくり」
16:00 ～ 16:30　蘇 睿弼 / 東海大学（台湾）
「台中におけるリノベーションまちづくり」
16:30 ～ 17:00　松永 安光 / 近代建築研究所
「世界のリノベーションまちづくりの新潮流」

は　じ　め　に

空き家や空きビル、空き公共空間を私たちの時代の資源として捉え直し、それらに新しい暮らしやシゴト・アソビを埋め込むことで、生活空間としてのまちを楽しく豊かにしていこうとする試みが、日本そしてアジアの各地で展開され始めています。建築学、都市計画学、社会学、不動産学等、既存専門分野の垣根を超える形で展開されるそれらの経験を交換し、共有し、その上に新たな概念や方法論を創り出すには、産官学の別や学術分野の別、地域・年齢の別を超えて関心を共有できる人々が出会い、議論し、発信する場が必要です。

今年 2 月、こうした認識を共有する人々が北九州に集い、それぞれの取組みを紹介し合うとともに、新たな場としての「リノベーションまちづくり学会」の構想とその具体化の方法について意見交換を行いました。そして、その議論を受けて、最初の学会活動として企て準備したのが、大阪での「リノベーションまちづくり学会 2015 in 大阪」（来る 11 月 28、29 日の 2 日間）です。分野や国籍の異なる 4 名の方々からの基調講演、大阪での事例見学会も非常に興味深い内容ですが、参加者がいくつかのグループに分かれ、「空き家・空きビルーその捉え方と活かし方ー」というテーマに関して、情報と意見を交換するラウンドテーブルディスカッションがメインイベントです。

各地でリノベーションまちづくりに関わる実践、研究、政策等に取組む多くの方々に、大阪でお会いできることを心から楽しみにしています。

2015 年 7 月吉日
リノベーションまちづくり学会実行委員会を代表して
松村 秀一（東京大学）

「プロフィールシートブック」について

この「プロフィールシートブック」は、日頃、異なる分野や専門において活動するリノベーションまちづくり学会の参加者同士が、学会開催期間中、そしてその後も、継続して互いをより深く知り、交流を持つためのツールとしてつくられました。

異なる分野や専門を隔てる障壁をできるだけ取り除けるようにとの思いから、多くの公共図書館で使用されているNDC分類や、一般性の高いキーワードを設定し、平易なつくりを目指しました。

ご自身と近い問題意識や興味を持つ方を探すツールとして、あるいは新たな世界の探求に、どうぞご活用ください。

凡　例

第1回リノベーションまちづくり学会（関西大会）
2015年11月28日～11月29日
プロフィールシート

タイトル

写真

氏名

所属・役職

NDC分類　：　000○○○○○○○，000○○○○○○○，000○○○○○○　※優先度が高い順で3つまで
キーワード：　○○○○○○○○○，○○○○○○，○○○○○○○○○，○○○○○○○○○，
○○○○○○○○○，○○○○○○○○○　※キーワードは6つまで

１．プロフィールシートのひな形

プロフィールシートは、各個人で一枚の作成が必要です。同じ所属先から参加する場合も、本会の参加申込み時と同様に、必ず各個人の責任のもと、ご本人が一枚作成してください。

プロフィールシートの作成にあたっては、このwordファイルのひな形に沿って、A４一枚以内で作成してください。用紙の余白は、上 25mm、下 30mm、左25mm、右25mmです。ヘッダー、フッター、文字幅や行間なども含めて変更しないでください。

２．シート上部の「肩書きスペース」

本シート上部の、「タイトル」行、「氏名」行、「所属・役職」行、および顔写真の「肩書きスペース」は、計６行で固定です。行間等を変更しないでください。

タイトルは、12pt、MSゴシック、25文字以内とし、原則として一行に収めてください。タイトルでは、本文の内容と合わせて、本学会に関連するご本人の活動や興味等のテーマを端的に表してください。

「氏名」行、「所属・役職」行は、このスペース内において下詰めで10pt、MSゴシックとしてください。「所属・役職」が複数行になる場合は、適宜、氏名段とともに段を上段へと繰り上げてください。ただし、「氏名」行は最大１行、「所属／役職」行は最大３行までとし、「タイトル」行と「氏名」行の間には必ず空白行を一行入れてください。

顔写真は、無帽、肩上で正面を向いたご本人の顔画像とし、通常履歴書に求められる画像を基本にしてください（ただしスーツ等は不要）。

３．「NDC分類・キーワード」スペース

NDC分類、およびキーワードは、9pt、MS明朝（英数字はCentury）、イタリック表記としてください。

NDC分類には、ご本人の専門や活動内容、もしくは興味について、下記ウェブページの日本十進分類法（NDC）10版を参照し、優先度が高い順で最大３つ以内、３次区分まで、該当番号と分類内容を含めて、一行に収まるように記入してください。

※表記例：*525 建築計画・施工*
333 経済政策・国際経済
369 社会福祉

キーワードは、ご自身の本学会に関連するご本人の専門や諸活動、もしくは興味について、最大６つまで自由に記入してください。ただし、欄内にて二行以内に収まるように記入してください。

４．プロフィールの本体

プロフィール本体の体裁は、二段組み、一段34行、9pt、各章タイトルはMSゴシック、本文はMS明朝（英数字はCentury）、行間は「固定値」で14ptとして、このwordファイルのひな形に基づいて記入することとし、文字幅や行間などを含めて一切変更しないでください。

プロフィール本体は、タイトルに合わせて、本学会に関連するご本人の専門も含めた諸活動について、必要に応じて画像や図表を用いつつ（画像・図表挿入した行は行間を1.0へ変更）端的に説明してください。ご本人の専門も含めた諸活動について、特段の記載すべき内容がない（関連の活動がない）場合は、本学会参加への動機や興味、将来の展望などでも構いません。

プロフィールの本体の文量は、画像や図表を含めて8割以上を目安に記入してください。

５．プロフィールシートの冊子化

このプロフィールシートは、学会参加者の交流を図るため、冊子としてまとめ、本学会開催日に参加者へ配布する予定です。

なお、冊子は、原則としてモノトーン印刷を想定していますのでご承知おきください。

地域資源を最大化していく人材育成の「場」の開発

徳田 光弘（とくだ みつひろ）
国立大学法人九州工業大学大学院工学研究院建設社会工学研究系准教授
一般社団法人リノベーションまちづくりセンター代表理事
株式会社北九州家守舎取締役，株式会社リノベリング取締役

NDC 分類 ： 525 建築計画・施工，377 大学・高等・専門教育・学術行政，318 地方自治・地方行政
キーワード： リノベーションスクール，リノベーションまちづくり，リノベーションまちづくり学会，エリアデザイン，エリアマネジメント，エリアマーケティング

１．リノベーションスクールを通じた都市再生事業

2011 年 8 月から北九州ではじまった産官学民連携で実施しているリノベーションスクールの代表を務めており、学の立場から、ストック社会に求められる人材の育成と地域再生の実践を兼ね備えた「場」の運営と開発を行っている。

リノベーションスクールは、空き家、空きビル、空き空間といった遊休化した空間資源を用いて、地域の根本的な課題を解決するためのエンジンである。実在の遊休化した不動産案件に対して、全国から集まる若手社会人を中心とした受講生がユニットを組み、ファシリテーター役を務めるユニットマスターとともに、数日間で案件の再生事業計画を練る。スクール最終日には、当該案件オーナーへ向けて公開の場でプレゼンテーションがなされ、スクール後、提案内容をもとに実事業化を目指す。北九州ではこれまでに 9 回開催され、株式会社北九州家守舎が中心となり 18 案件が実事業化され（2015 年 8 月現在）、380 名の新規事業者／雇用者を創出するとともに、拠点エリアの歩行量が 3～4 割増といった成果につながった。現在、他の地域でも開催されており、スクール修了生は延べ 1,000 名余となっている（下画像は受講生との集合写真）。

現在、スクールの他メニューとして、四日間でリノベーションの施工体験をするセルフリノベーションコース、公共空間の新しい利活用方法を社会実験する公共空間活用コース、短期型スクールでは学べないスクールの事前事後の動きを網羅的に学ぶプロフェッショナルコースなどの開発・試行を、株式会社北九州家守舎、株式会社リノベリングとともに進めている。

２．エリアデザイン＆マネジメントの教育開発

2015 年 8 月より、「産学連携サービス経営人材育成事業費補助金（経済産業省）」を受け、プロジェクト名称「地域資源（ストック）活用型サービス経営人材育成事業」の統括ディレクターとして、本学大学院を対象に教育プログラム開発を行う予定である。

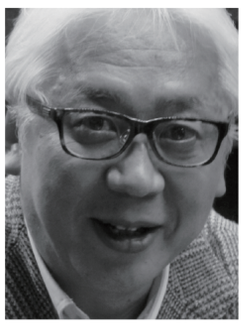
この教育プログラム開発は、遊休化した空間資源を対象とするのみならず、ヒト・コト・モノ・トキ・カネといった有形無形の地域資源（ストック）を科学的根拠に基づき活用でき、それらを複合化・最適化して、地域に新しいサービスやビジネスを創出できる人材が求められることを前提に、本学のものづくりからことづくりまでに至る教育的基盤と、リノベーションスクールに代表される産官学民連携の人材育成実績をもとに、専門的かつ実践的な新しい教育プログラムを確立することを目的としている。

３．リノベーションまちづくり学会の立ち上げ

ストック型社会に求められる人材と情報が集える「場」のひとつとして、一般社団法人リノベーションまちづくりセンターを設立している（2013 年 8 月～）。

なお、本学会も、センターが公益財団法人建築技術教育普及センターの普及事業助成を受けて開催されており、研究活動や実践例の個別性や地域の固有性が高いリノベーションまちづくりの現状について、まず参加者それぞれが固有の実例や経験、知見を持ち寄り、情報を交換・共有する「場」をつくるという主催者側の共通認識を反映した事業である。

団地再生・コンバージョン・建築再生・場の産業



松村 秀一（まつむら しゅういち）
東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授
一般社団法人 HEAD 研究会代表理事・副理事長
一般社団法人団地再生支援協会副会長、NPO 法人建築技術支援協会代表理事

NDC 分類 ： 525 建築計画・施工，527 住宅建築，526 各種の建築
キーワード： 団地再生，コンバージョン，建築再生，場の産業

１．団地再生－甦る欧米の集合住宅（2001 年）

私は元来建築構法、建築生産、とりわけその工業化を研究対象とする者です。1986 年から東京大学で研究室を運営してきましたが、アジア各地から日本の住宅生産の工業化について学びたいという留学生が増えたのは 1990 年頃からでした。日本で住宅生産の工業化が時代のテーマとなり、様々な新しい技術が生み出されたのは 1960～70 年代です。ですので、そうした留学生が学ぶべき対象は必然的に過去の技術やそれを支えた体制になるわけです。もちろん私はそうした事柄についてある程度の知識を持っていましたから、教えることはできたのですが、ちょっと待てよという気持ちになりました。1960～70 年代にかけて工業化構法によって建てられた多くの住宅が、築後 20～30 年を経て良好な住まいになっているのか否か、私はその現実を見ていなかったのです。明らかになっているであろう結果を確認せずに過去の技術だけを教えるのは好ましくないと考えました。

どうせなら日本だけでなく、概ね同じ時代に工業化構法の開発や適用を進めた欧米諸国の結果も知っておきたい。そう思って欧米の研究者とチームを組み、各国の団地の調査を行いました。するとどうでしょう。日本ではお目にかかれないような大掛かりなリノベーションがそこここで行われていたのです。ここで私の関心は大きく団地再生に傾き、国際共同研究のターゲットも団地再生プロジェクトに絞ることにしたのです。その成果をまとめたのが「団地再生－甦る欧米の集合住宅」（彰国社、2001 年）です。

２．コンバージョンによる都市再生（2002 年）

団地再生に関する研究が一段落したところで、多くの研究者や実務者の方々と研究会を組織して、既存建物の転用、すなわちコンバージョンの実現可能性に関する研究を始めました。当時日本ではオフィスの供給過剰予測に基づく「2003 年問題」が話題になっていました。私たちは都市の中心部に位置することの多い空きオフィスを集合住宅に転用する具体的な方法を明らかにしようとしましたが、これについても諸外国に先例がありました。そこで先ずは海外調査を行ったのですが、その成果は「コンバージョンによる都市再生」（共著、日刊建設通信新聞社、2002 年）にまとめました。その上で、日本でコンバージョンを行う方法を、「コンバージョン[計画・設計]マニュアル」（共著、エクスナレッジ、2004 年）、「コンバージョンが都市を再生する、地域を変える」（共著、日刊建設通信新聞社、2004 年）の 2 冊にとりまとめました。

３．建築再生の進め方―ストック時代の建築学入門（2007 年）

コンバージョン研究をまとめたあたりから、建築学という分野も新築一辺倒ではない教育を必要としていると考えるようになり、そのための教科書のようなものをコンバージョン研究の時の仲間等と一緒につくることにしました。その成果が「建築再生の進め方－ストック時代の建築学入門」（共著、市ヶ谷出版社、2007 年）です。

４．建築－新しい仕事のかたち　箱の産業から場の産業へ（2013 年）

コンバージョン研究の頃から、青木茂建築工房やブルースタジオ、東京 R 不動産といった新たにリノベーションの世界を切拓こうとする企業や、CET 等のエリア・リノベーションの動きが見られるようになり、2010 年代に入るとそうした動きがいつの間にか日本中で見られるようになっていました。

各地を訪ねるとその熱気や面白さは想像以上のもので、私は産業の大転換を確信するようになりました。各地の先端事例を訪ね、フロントランナーの方々のお話を聞きながらまとめたのが「建築－新しい仕事のかたち　箱の産業から場の産業へ」（彰国社、2013 年）と「場の産業　実践論」（彰国社、2014 年）です。

リノベーションまちづくり学会　2015 in 大阪
プロフィールシートブック

2015 年 11 月発行
編　集：倉内 由美子、力丸 朋子、德田 光弘
発　行：一般社団法人リノベーションまちづくりセンター

「リノベーションまちづくり学会2015 in 大阪」は、公益財団法人建築技術教育普及センターの平成27年度助成事業として実施いたします。